国語：行動と言葉を根拠に人物を読む

講師用メモ・バージョン 4

5ページの支援用ボードです。第1ページの本文Aを読み、行動・発言を指してから解釈を話してもらいます。「笑われた気がして」は人物の受け止めの描写で、他人が本当に笑った事実と混同しません。第2ページは講師と読む説明例であり、診断課題ではありません。カードは複数の場所へ複製してよく、同じ根拠から複数の読みを検討できます。紙や線で、根拠と解釈の対応を残してください。第3ページの本文Bは別の文です。C1〜C5はBに戻って答え、初回の考えと、対話後に直した考えを分けます。人物の気持ちが必ず変化したと決めつけさせず、変わらない判断や複数の目的を本文に即して認めます。C6の新しい本文Cは課題文に示します。解答例は生徒用ボードには含めません。本文の言葉から説明できる別の読みを認め、字数だけでは達成を判断しません。実際の授業での試用や日本語母語話者による確認はまだ行っていません。C1は動作・推測のラベルで分け、個別欄に収まらない説明は共有欄や紙へ続けます。

練習問題の解答はこの講師用メモに分けています。編集版であり、実際の授業での試用はまだ行っていません。

C1〜C3：書かれたことと推測を分ける

C1. 本文Bから、航の動作を二つ抜き出し、それぞれ何をしている場面か説明してください。気持ちの推測は別に書きます。欄には「動作：」「推測：」と分け、続きは下の共有欄か紙へ書きます。

解答・確認の観点：例：番号が消えかけた本をよける / 司書の机に置く / 友人の本を半分受け取る。実際の動作二つと場面が対応すれば可。「友人を嫌った」は書かれた動作とは区別。

C2. 本文Bの初めと終わりの航を比べます。変わった行動と、変わらないと考えられる点を一つずつ、本文の言葉を使って説明してください。

解答・確認の観点：例：初めは本を一冊ずつ扱い、最後は友人の本も引き受ける。正しい場所へ戻そうとする姿勢は、よけて司書へ回す行動にも表れる。必ず気持ちが逆転したと決めず、別の根拠ある説明も認める。

C3.「友人はため息をついたから、航を嫌っている」と断定した読みがあります。本文に書かれたことと、そこからの推測を分け、断定を避けた説明に書き換えてください。

解答・確認の観点：ため息・時計を見る動作と、先に帰りたいという記述はある。航への嫌悪までは示されない。例：早く帰りたいので作業を急ぎたいのかもしれない。推測を事実として書かないことを確認。

C4〜C6：比べて説明し、別の文章で確かめる

C4. 本文Bの「友人の持つ本を半分受け取った」を、二通りに読んで比べます。それぞれの読みの根拠と、本文だけでは言い切れない点を示してください。

解答・確認の観点：例：一緒に片付けるために負担を分けた / 友人が早く帰れるよう作業を進めようとした。最後の行動や前の会話を根拠にする。唯一の感情、以前の人間関係、将来の出来事などを事実として足さない。

C5. 本文Bの航について、根拠を二つ以上使い、120〜160字程度で自分の読みを書いてください。本文の言葉と自分の説明をつなぎ、まだ判断できないことも一つ残します。字数はこの練習の目安です。

解答・確認の観点：本文の別々の言葉と人物像・行動の読みの対応を見る。根拠の引用だけ、感想だけで終わらないことと、断定の範囲を確認。別の人物像でも本文と矛盾しなければ認め、字数のみを評定にしない。

C6. 本文C：教室を出た悠斗は、丸めた原稿を開き直した。書き込みだらけの一行をゆっくり読み、消さずにその横へ小さく言葉を足した。廊下から友人が呼んだ。悠斗は「あと少し」と答えた。 この人物の行動をどう読みますか。二つの語句を指して説明し、本文にない結果を加えていないか確かめてください。

解答・確認の観点：例：原稿を開き直す・言葉を足す・あと少しと答えることから、書き直しを続けようとしていると読める。必ず満点を取る、友人を嫌っているなどは不明。対話後の変更と初回の説明を分ける。

利用と出典表示

© 2026 MomentDesk / PRYADKO DANILA. 無料・有料の授業で利用し、自分の授業用に変更できます。共有時はMomentDeskの出典表示を残してください。テンプレートの転売や、自作としての再公開はできません。

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』中1 C読むこと、冊子67〜70ページ — https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_002.pdf#page=71